

ル・プティ 《本日の花、果物、野菜》

神奈川県大学図書館蔵

パリ・コミュニケーション政治諷刺画コレクションより

## CONTENTS

- 図書館で野菜を想う ..... 2頁
- よみがえる書物の姿 貴重資料修復 ..... 4頁
- 洋書通信 ..... 6頁
- 図書館の所蔵資料の紹介
  - 書物に描かれた宇宙 H. シューデル『世界年代記』 ..... 7頁
- 図書館からのお知らせ 今号の表紙／編集後記 ..... 8頁

# 図書館で野菜を想う



ジュゼッペ・アルチンボルド  
《ウェルトウムヌスとしての  
皇帝ルドルフ二世》1591年

今年2月、ブロッコリーが半世紀ぶりに新たな“指定野菜”として2026年から追加されるというニュースがありました。指定野菜とは野菜生産出荷安定法によって、消費量が多く国民の生活に欠かせない主要な野菜を国が位置付け、安定供給を目指す品目を指定する制度によるものだそうです。新たに指定されるブロッコリーを入れて現在14品目、キャベツ、きゅうり、大根、ジャガイモ等々、日々の献立に欠かせない野菜がその対象になっています。日本では成人が健康のために摂取すべき野菜の量は一日350gとされていますが、なかなか目標に達するのは難しく、特に若い世代ほど摂取量が少ないようです。

楽しく野菜を知り、読んだ後には食べたくなくなってしまう、そんな図書館の所蔵資料を紹介いたします。



## 日本の野菜文化史事典 / 青葉高著 — 東京：八坂書房，2013.9

野菜のルーツやいつ頃から日本にあったかなど知ることができる。例えばキャベツの原始型は紀元前6世紀頃から地中海に侵入したケルト人によって栽培されたケールで、結球（葉が重なりあう）したキャベツが確認されるのは8世紀、13世紀にはイギリスで改良が始まったようだ。我々が知る丸いキャベツが日本で最初に栽培されたのは開国期の横浜や函館で、それ以降の品種改良によって最も重要な日本の野菜の一つになった、といった知識が満載の本である。

請求記号：B620-307（横浜）



## ニンジンでトロイア戦争に勝つ方法：世界を変えた20の野菜の歴史 / レベッカ・ラップ著；緒川久美子訳 — 東京：原書房，2015.1

歴史上の出来事や文化と野菜のかかわりがユーモラスな語り口で綴られた本。17世紀フランスの宮廷で王子たちはグリーンピースに夢中だった、タマネギ、ニンニク、ラディッシュはピラミッド建設労働者達の重要な食料だった、ナスは人を錯乱状態に追いやる恐怖の野菜だと思われていた等それぞれの野菜に関するエピソードやどのような過程を経て広く食卓に並ぶようになったかが楽しみながら読める。

請求記号：B620-1,2-327（横浜）

カラー図鑑 野菜の秘密：利用法・効能・歴史・伝承 / ジル・デイヴィーズ著；杉田七重訳 — 東京：西村書店，2021.6

全頁に美しい野菜の写真があり食欲をそそる。それぞれの野菜の原産地、栄養、料理のヒントが載り、いくつかの野菜には「警告」としてその野菜の持つ毒性やアレルギーなどの注意が書かれている。見て楽しく役に立つ本。

請求記号：D620-66（みなとみらい）



ボタニカルイラストで見る 野菜の歴史百科：栽培法から料理まで / サイモン・アケロイド著；内田智穂子訳 — 東京：原書房，2015.9

自分で野菜を育てて収穫したい人向け。家庭菜園の基礎知識から野菜の原産地、料理法まで掲載されている。この本の特徴は、英国王立園芸協会所蔵の美しいイラストがふんだんに載っている点で、絵を眺めるだけでも楽しい。

請求記号：B620-335（横浜）

ポテト・ブック / マーナ・デイヴィス著；伊丹十三訳 — 東京：河出書房新社，2014.11

1976年に刊行された本の復刊。トルーマン・カポーティによる序文、伊丹十三による翻訳である。ポテト好きの人必読の書で、料理法をたくさん収録し、ポンド、オンスなどの単位もグラムに変換した数字が書かれているので調理するときも困らない。ポテトに関する雑学もあり、ポール・デイヴィス他22人のイラストレーターによる挿絵も楽しい。

請求記号：B590-622（横浜）



シリーズ「食」の図書館 — 東京：原書房

トマトの歴史 / クラリッサ・ハイマン著；道本美穂訳，2019.10

請求記号：D620-1（横浜、みなとみらい）

タマネギとニンニクの歴史 / マーサ・ジェイ著；服部千佳子訳，2017.4

請求記号：D620-92（横浜）

「食」の図書館シリーズは、野菜の他にも様々な食べものに関するタイトルがある。テーマに則した写真や芸術作品の図も豊富に載っている読みやすい本で内容も詳しく、楽しみながら専門的な知識を得ることができるシリーズである。

\*2頁タイトル下の絵画は16世紀イタリアの画家、ジュゼッペ・アルチンボルドの作品です。アルチンボルドは野菜や果物、魚などを寄せ集めて描いた肖像画が有名な画家で、横浜図書館ではロラン・バルトの美術論「アルチンボルド」のテキストを収録した画集「Arcimboldo/text by Roland Barthes」を所蔵しています。（請求記号：A723-187）ぜひご覧ください。

## よみがえる書物の姿 貴重資料修復

神奈川大学図書館には貴重資料と呼ばれる稀覯本が多数所蔵されています。最も古い刊行年代は15世紀、比較的新しいものでも19世紀の刊行でほとんどが200年以上前に作られた本です。このような本は痛みや劣化がどうしても避けられず、放っておくと表紙が崩れたり、長年の使用でページが破れたりといった状態になってしまいます。これらの貴重資料を今後も大切に所蔵、管理するためには専門の業者による修復作業を行う必要があります。修復作業によってよみがえった貴重資料を紹介いたします。

### レッドロッド

写真の資料はデヴィッド・ヒュームの『英国史』1757年刊。レッドロッドとは、本の表紙に使われている革が粉をふいたようになる、またはボロボロとはがれる状態などを指す。これは長年にわたって光や大気中の汚染物質にさらされることによって起こる現象で、本を手にするたびに革が剥がれたり、周囲の書籍を汚したりしてしまう。この修復にはアクリル系樹脂を使い表面をコーティングすることで症状が抑えられる。



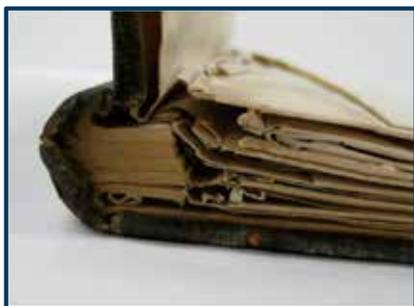
修復前



修復後

### 本紙（ページ）の修復

写真の資料は『ペリー艦隊日本遠征記』地図の巻。綴じられている大判の地図が破れたり、折り目が破損していたりと劣化が目立った。この修復では本そのものを一旦解体し、背に残っている膠を除去、再度オリジナルの表紙に合わせて染めた紙で製本し、本紙もきれいに修復され折り畳まれている。



修復前



修復後

## 背表紙、表紙の破損

破損が進み、利用できないほど傷んだ1670年刊行のスピノザ『神学政治論』。背と表紙の特に傷みが激しい部分。この場合も本そのものをいったん解体し、背に残った膠を除去、新しい膠で接着し直している。革が剥がれて崩れている部分は、オリジナルのものに合わせて染めた革を新調し貼っているため、修復の跡が目立たず自然な風合いで完成されている。



修復前



修復後

## 表紙の分離

完全に表紙が本体から取れてしまったケース。1755年刊サミュエル・ジョンソンの『英語辞典』である。さらにレッドロッド、背表紙上部の破損などもあり傷みが激しい資料であった。このケースも本を解体し膠の除去、新たに接着を行い、オリジナルに合わせた革で背表紙の欠けた部分などが新たに加えられている。書架から取り出すたびに破損が進むほど劣化していた本が、安心して動かせるまでに修復された。



修復前

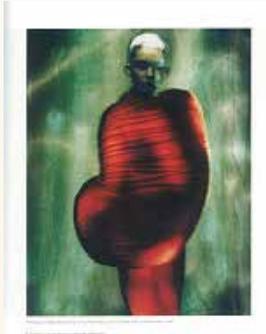


修復後

上記の資料は文化財の保存・修復業務に実績のある京都の会社（経師「大入」）に修復をお願いしました。奈良時代より続く「経師（きょうじ）」という職人は、最初は写経をする人として記録され、その後装幀や印刷なども行うようになったとされています。現在では資料の修復や複製品制作、装幀などを手掛ける会社として様々な資料を取り扱っているそうです。今回紹介した本学の貴重資料が修復によってよみがえったことに、あらためて伝統の技のすばらしさを感じました。

# 洋書通信

洋書は表紙のデザインが個性的で、一目見ただけでハッと惹き付けられるものもあります。その中でもファッション関連の本は、洗練されている印象があります。本学所蔵の洋書から特に「おしゃれ」な洋書を紹介します。



## 「コム・デ・ギャルソン」川久保玲作品集

Rei Kawakubo : Comme des Garçons : art of the in-between / Andrew Bolton -- New York : The Metropolitan Museum of Art, c2017

2017年に開催された世界的ファッションデザイナー川久保玲のメトロポリタン美術館展覧会のカタログ

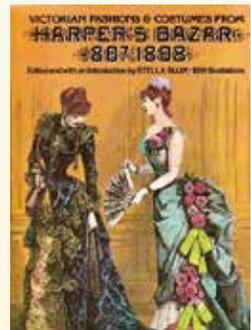
請求記号 : A589-7 (横浜 : 地下2階書庫)

## 19世紀ヴィクトリア朝ファッション

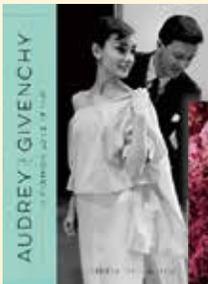
Victorian fashions and costumes from Harper's bazar, 1867-1898 / edited and with an introduction by Stella Blum -- New York : Dover Publications, 1974

現在も発行されている歴史あるファッション誌ハーパーズバザーに掲載された19世紀末のファッションイラスト集

請求記号 : A589-8 (横浜 : 地下2階書庫)



## 憧れのオードリー・ヘプバーン



Audrey and Givenchy : a fashion love affair / Cindy De La Hoz  
Philadelphia ; London : Running Press, c2016

請求記号 : C589-2 (みなとみらい)



100 years of fashion / Cally Blackman -- London : Laurence King Publishing, 2012

請求記号 : A589-4 (横浜 : 地下2階書庫)

## アロハシャツの歴史

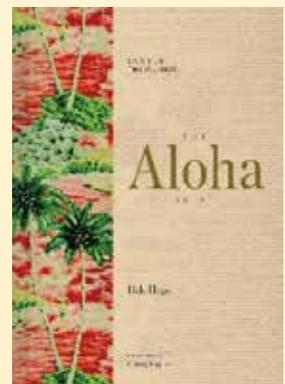
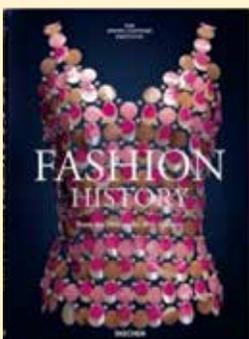
The aloha shirt : spirit of the islands / Dale Hope with Gregory Tozian -- Patagonia, c2016

請求記号 : C589-7.B (みなとみらい)

## 大型本で観るファッションの歴史

Fashion : a history from the 18th to the 20th century / chief editor, Akiko Fukai ; editor, Tamami Suoh -- Köln : Taschen, c2019

請求記号 : C382-34 (横浜 : 2階洋書)

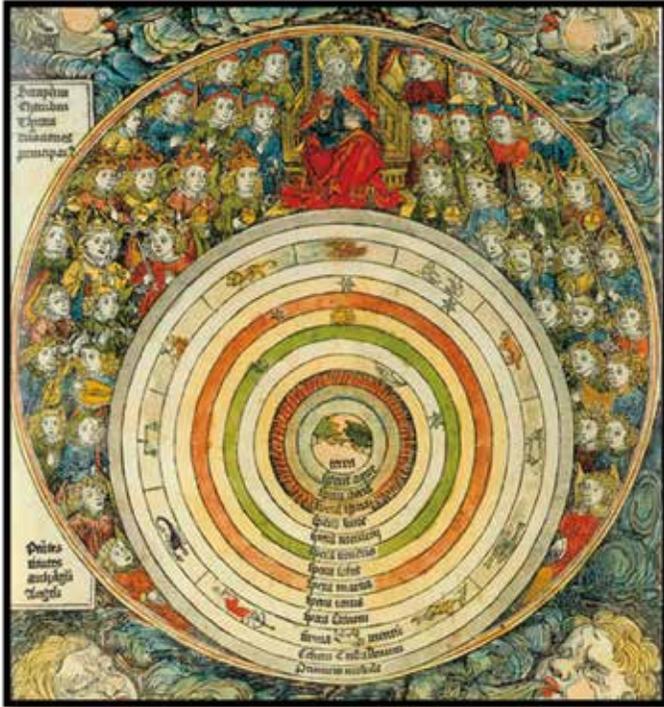


書物に描かれた宇宙

H. シューデル『世界年代記』 天地創造 第七の聖別

1493年(ファクシミリ版 2006年)

*Liber cronicarum cum figuris et imaginibus rerum memorabilium ab initio usque ad annum xti Christi MCCCCXCIII / autore Harmano Schedelio Nurimbergesi Doctore, 1493 (facsimile, 2002) (A209-17)*



左の図は1493年に刊行されたハルトマン・シューデル著『世界年代記』の木版画挿絵、キリスト教的解釈による宇宙像である。本書は出版地に因んだ『ニュルンベルク年代記』というタイトルのほうが良く知られているかもしれない。活版印刷初期に印刷されたインキュナブラと呼ばれる貴重な書物であり、その内容は旧約聖書を基にした人類の歴史や神話などが木版画挿絵とともに印刷されている。この図は書物の最初の部分に記された天地創造7日目の神の姿で、6日間にわたって世界を創造した神が天の玉座に着き、祝福している姿である。

古代、人々は太陽、月、惑星、星々など、全ての天体は巨大な丸天井に貼り付いて動いていると考えており、その丸天井を「天球」と呼んだ。この図でも

地球を中心として土、水、空気、火の四元素が層をなし、その周りに月、水星、金星、太陽、火星、木星、土星の天球と、その外に恒星天（恒星が固定されている天球）、水晶天、物質界と非物質界の境となる原動天がある。天球全体を動かしているのは、その外側にいるたくさんの“初動天使”である。そしてその頂点に坐するのは神である。13世紀の哲学者トマス・アクィナスによる思想体系を反映したもので、アリストテレスの宇宙像を基にしたキリスト教会公認の「宇宙像」と言われている。

天文学は古代エジプトとバビロニアで生まれ、その後16世紀までの長きにわたって大きな影響を残したのが古代ローマの天文学者プトレマイオスによる『アルmagest』である。アリストテレスの宇宙論を引き継いだこの著作に〈天動説〉として知られる概念が記されており、この概念はキリスト教世界によって長い間受け入れられてきた。宇宙は神によって動かされ、地球はそのすべての中心であり不動であると考えられてきたのである。しかし16世紀になるとコペルニクスの提唱した〈地動説〉を記した著書『天球の回転について』が発表され、その後ガリレオ・ガリレイが当時発明されたばかりの望遠鏡で天体を観測した結果、地動説が正しいことを確信し1632年に著作『天文対話』で地動説を支持する。

15世紀の書物に描かれた神の司る宇宙の姿は、現代人にとっては想像力に満ちた面白い絵としか思えないかもしれない。しかし人類は、その時代の知識を総動員して宇宙の姿を描いてきたのだ。今、我々が知る宇宙の姿も、過去何千年にもわたる多くの天文学者の観測や研究によってもたらされたものである。将来また新たな発見によって、新しい宇宙の姿が書物の中に描かれる可能性があるかもしれないのである。

(図書館事務部図書課 荏原 直子)

# 図書館からのお知らせ

## 共通

### ■春季長期貸出期限日

2024年4月8日(月)

- ・返却期限日までに必ず図書館に返却してください。
- ・延滞すると延滞日数分(最長2週間)貸出停止になります。
- ・資料を汚損、破損、紛失した場合は、規則により弁償していただきます。

### ■図書館を利用する際は身分証が必要です。

入館ゲートを通るとき、退館するとき、図書を借りるときに身分証が必要です。

### ■ガイダンス

4月、5月に利用ガイダンスを行います。ガイダンスの内容については図書館ホームページをご覧ください。

### ■盗難への注意

貴重品(財布、携帯等)は席を離れる時、必ず身につけてください。

### ■館内マナーを守りましょう

- ・飲食は禁止です。ただし蓋付の飲み物に限り水分補給ができます。
- ・スマートフォン、携帯電話はマナーモードにして、通話をご遠慮ください。
- ・長時間席を離れる場合は、荷物をおいたままにしないでください。
- ・他の利用者の迷惑になる行為は慎んで、静かに利用してください。

### ■取り寄せ

他キャンパスの図書は、取り寄せて利用することができますので、OPACで所蔵館を確認して予約ボタンからお申込みください。

## 編集後記

横浜図書館では今年の1月から3月にかけて天文学をテーマにした展示「天球のロマン」を行った。天文学の代表的著作といえばコペルニクス著『天球の回転について』があり、複製品ではあるが今回の展示でも紹介した。それまで信じられていた天動説を覆し地動説を唱えたこの著作は1543年に刊行され、天文学だけでなく人類史上においても重要な書物とされている。

この著作は興味深いエピソードを持つ本である。印刷される際に著者の知らない序文が密かに差し込まれたのだ。そこには「この本に書いてある太陽中心モデルについては単なる計算上の仮説でしかなく、実際に地球が動いていることを主張するものではない」という、著者の意図とは異なる文章が書かれていた。本が印刷された時、コペルニクスは病で衰弱しており、それを知らないまま本が完成したすぐ後に亡くなったと言われている。さらに複雑なのはこの仕業が悪意によるものではなく、本の出版に尽力していた人物の身を案じた知人が天動説を支持するキリスト教会の非難から彼を守るためにこのような序文を差し込んだという事だ。刊行後『天球の回転について』は禁書扱いにもならず、やがて忘れられた。良い話なのか悪い話なのかわからなくなるが、科学史にとって重要な著作が友人の身を案じた一人の人物によってこのような経過をたどっていたという事実に複雑な気持ちがする。

地動説はその後ガリレオ、ケプラー、ニュートンなどによって支持され、やがてその正しさが証明された。価値のある発見や仕事というのは障害を乗り越え、いつかその輝かしい姿を現わすということなのだろうか。

コペルニクスの名は今や歴史の中で輝いている。

(N.E.)

## 今号の表紙

### ル・プチ 《今日の花、果物、野菜》

神奈川大学図書館蔵 パリ・コミューン政治諷刺画コレクションより

諷刺する人物を花や果物、野菜の姿に描いた作品35点のシリーズの表紙。私腹を肥やす大臣は丸々と太ったかぼちゃに、激しやすい性格のジャーナリストは赤かぶに、コミューンの最大の敵、宰相ティエールは王政を連想させる梨の姿で描かれている。

